

# 研修内容の 紹介



# シュツットガルトについて

## ～対面式・市内見学～

西中学校 1年 松井 勇樹

ドイツに着き初めての行事が「対面式」でした。

対面式ではドイツの高校の先生のお話を聞き、ホストファミリーと団員が初めて顔を会わせました。自分のホストファミリーがどんな方なのかみんなドキドキしてとても緊張していました。ぼくは、コミュニケーションがとれるか不安がありました。笑顔で優しく話しかけてくれるホストファミリーにすこし安心しました。



### 市内見学

シュツットガルト市内では、石やレンガ造りの建造物を多く見ることができます。

石畳の道もあり、歴史を感じる街並みでした。旧宮殿、オペラハウス、新宮殿を見学しました。

世界初のテレビ塔があり、ドイツは早くから工業が発展していたのだとわかりました。古い建物の多いところは石畳がひかれ街の歴史の長さを感じる事ができました。



新しい建物はカラフルな色を使って明るい雰囲気になっていました。街の中心でも緑が多く、人も動物にも良い環境になっていました。

## 市の代表として

### ～学校見学 表敬訪問～

上石津中学校 1年 三宅 唯介

2日目の朝、ケーニギン・シャルロッテ高校に集まり交流をしました。まず、仲を深めるために自己紹介をしました。団員の中にはドイツ語を使いながら積極的にコミュニケーションをとっている人もいました。ボールを投げて名前を呼ばれたらその人がボールをキャッチして、名前を覚えるゲームをしました。そのゲームで、名前を覚えることができたので、それからは、みんな名前で呼ぶようになり、仲良くなりました。そして、他のホストフレンドのみんなとも話す回数が増えていき、とても良かったです。



その後、社会と理科の2つのグループに分かれて、学校見学をしました。僕達の学校ではみんな制服を着て登校します。また飲み物は、夏の暑い時期だけお茶かお水を持っていても良いと決められていますが、その学校では、みんな私服を着ていました。飲み物も自分達で持ってきていました。中には炭酸飲料や紙パックのオレンジジュースを持ってきている子もいてとても自由だと驚きました。僕は今まで制服を着るのは当たり前だと思っていたけれど、日本では何故制服と決められているのかを知りたいと思いました。授業中、グループで話し合うところではグループの人以外の人とも話したり、課題の内容とは違うことを話しているように僕は感じられたのに先生は注意ではなく、どんな意見でも受け入れて、皆が自分の意見が言えるようにしていたところが印象的でした。

学校全体を回って、各教室、美術室、コンピューター室、図書室、保健室などを見学しました。ドイツの学校では、1年生から10年生、11年生など中学、高校を分けずに数えている所や、教室では黒板以外に拡大機を使い授業の内容のポイントを大きく表示してわかりやすくしていたり、保健室には養護の先生はおらず、看護の教育を受けた生徒が必要時に来て手当てしている所も日本と違うところでした。学校見学時、廊下などですれ違う生徒たちは母国語のドイツ語だけでなく英語でも話かけてくれて、積極的に交流できたのでよかったです、うれしかったです。

表敬訪問では、市長さんと対面しました。シュツットガルト市の紹介DVDを見て、建物がオレンジの屋根



に白い壁と統一されていて町並みと山の風景がとてもきれいだと感じました。そして市長さんが、大垣との交流を深められるようにいろんなところを見て学んでください。と英語であいさつをしてくださいました。皆、大垣市の代表として意識を強く持って、慣れない言葉を聞き取ろうと真剣に話を聞くことができてよかったですと思います。

## 自動車誕生の町 シュツットガルト

### ～ベンツ博物館～

江並中学校 1年 大角 桃菜

ドイツへ来て2日目、表敬訪問の後は、メルセデス・ベンツ博物館へ見学に行きました。車にはあまり興味がないのですが、ベンツ博物館には行きたいと思っていたので、とても楽しみにしていました。建物は、とても大きくてびっくりしました。中へ入ると、カウンターで音声ガイドされる機器をもらって、エレベーターに乗りました。

エレベーターは、スーパーなどにあるようなエレベーターではなく、タイムカプセルのようなエレベーターでした。そのタイムカプセルにのって8階へ行くと、過去へとタイムスリップして、1886年の世界となり、自動車の歴史の始まりとなります。



- <8階> まだまだ、今のような車ではありませんでした。屋根や、ドア、ボディがありませんでした。馬車でしたが、タイヤは3つしかついておらず、とても大きかったです。エンジン付きの馬車でした。これからどのような進化をするのか、楽しみです。
- <7階> 旅行などに使われる車、バスなどの展示になっていました。とてもカラフルなボディで、おしゃれでした。8階よりは、現代に近づいていましたが、まだまだ今走っているようなバスではありませんでした。
- <6階> ディーゼルエンジン付きで、荷物を運ぶための車の展示になっていました。路線交通から、エンジンバスに変えて、荷物を運びやすくしたりするなどの、技術が発展していきました。展示してある乗り物は、カラフルなものが多かったです。
- <5階> 緊急自動車の展示がしてありました。たくさんのデザインがあり、とてもおしゃれでした。
- <4階> この階はバスなど、私たちの生活を便利にしてくれる車の展示になっていました。ようやく、いま道で走っているような車に近づいてきました。
- <3階> いよいよ現代に近づき、ドイツの町中でみられるような車の展示になりました。今までのような、カラフルなボディの車は少なく、シルバーが多かったです。
- <2階> カーレースに使われた車の展示になっていました。カーレースに使われた車が、メルセデス・ベンツ博物館に、たくさん展示してあり、おどろきました。



8階から3階へ、過去から現代へと変わっていくのは、タイムスリップしているようでした。メルセデス・ベンツ博物館に展示してあった車は、数えきれないほど、たくさんありました。

この、7つのフロアで、125年を超える自動車の展示がしてありました。

## 憧れのお城

### ～ノイシュヴァンシュタイン城～

南中学校3年 矢野 愛香



<ノイシュヴァンシュタイン城について>

このお城はルートヴィヒ2世によって建設されました。ルートヴィヒはヴァルトブルク城やヴェルサイユ宮殿を目にし、自分の中世への憧れを具現化するロマンチックなお城を作ろうとしました。しかし、ルートヴィヒはベルク城に軟禁されました。その翌日、シュタルンベルク湖にて謎の死を遂げました。ルートヴィヒ2世が亡くなったことよりノイシュヴァンシュタイン城は、未完成の部分が多いまま建設を中止されました。ノイシュヴァンシュタイン城は、ディズニーランドのシン

デレラ城のモデルにもなりました。

- ・Neu (ノイ) =新しい
- ・Schwan (シュヴァン) =白鳥 という意味。
- ・Stein (シュタイン) =石

ルートヴィヒ2世が存命中は、”ノイホーエンシュヴァンガウ”（新白鳥の里）という城名でした。1890年より、”ノイシュヴァンシュタイン城”となりました。

お城へ行くまでには、坂道を約40分かけて歩き、疲れました。しかし、登ってから見たお城は、大きくて日本のお城とは全く印象の違うものなので、その綺麗さと迫力にビックリしました。そして実際、お城の中を見学した時は、壁に描いてある豪華な絵や、白鳥の形をした水道等に感動しました。マリエン橋から見たお城は立派で、とても格好よく見えました。



## 体験を通して・・・ ～リッタースポーツ・チョコレート工場～

北中学校2年 伊藤 理沙

4日目、私たちはリッタースポーツ・チョコレート工場に行き、見学や買い物、チョコレート作り体験をしました。ヴァルデンブーフ(Waldenbuch)にある、ドイツの中でも有名なチョコレートの工場です。工場だけでなく、地下には、工場で作られた製品の直売店があります。

買い物の時間には、地下でチョコレートを買いました。リッターチョコレートは世界で約80カ国で食べられていて、とても有名です。日本では、400円近くする一つのチョコレートが、売店では1ユーロ(€)(約140円)で買うことができました。

他にも、スーパーでは見かけない、透明のケースに何十枚も入ったものや、100枚入り=1mパックなど、面白いチョコレートもあって、とても驚きました。このリッターチョコレートはとても美味しくて、私たちは売店でたくさんのチョコレートを買いました。



工場に入って、展示室の中を見て回りました。リッタースポーツ・チョコレートの今までの歴史を年表のようにしたものや人の顔をチョコレートで表現したものなど、他のところにはないような展示が多くありました。中でも、私が一番興味をそそられたのは、ボタンを押すと工場の中からトラックが出てきて、小さいチョコレートを取り出し口まで運んでくれるものです。チョコレートの種類も何種類かあって、取り出し口から出てきたチョコレートはパートナーと分けて食べました。

その後、調理室に移動をして、チョコレート作り体験をしました。チョコレートの味は3種類あってミルク、ビター、ホワイトの中から好きなものを選んで、トッピングをしました。トッピングは、シリアルやナッツ、ドライフルーツ、コーンフレークなど10種類くらいの中から3つ選びました。温かいチョコレートが固まらないうちに、型に入れ、板を軽く叩くようにして空気を抜くのが少し難しかったです。また、チョコを入れる箱も、一人一人が思い思いのイラストや文字を書いて作りました。完成したチョコレートは、オリジナルの、思い出の詰まったものになりました。

作ったチョコレートは、自分だけで食べるのではなく、パートナーのチョコレートを食べてみたり、自分のチョコレートをあげたりしました。他の子のチョコレートは、自分とまた違った味を楽しむことができたし、絆を深めることができ、良い体験になったと思っています。

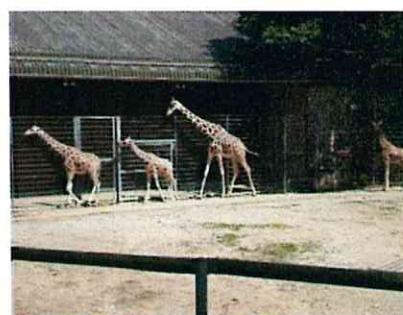


## 動物園に行って

### ～ヴィルヘルマ動物園～

赤坂中学校3年 桑原 宏太

ドイツ・シュツットガルト市研修派遣の4日目、リッター・スポーツでチョコ作りをした後僕たちは、シュツットガルト市にあるヴィルヘルマ動物園に行きました。ヴィルヘルマ動物園は、ヨーロッパで唯一の動物園と植物園が一緒になっている施設だそうです。1846年に建てられたこの建物は当時ドイツ皇帝・第7代プロセイン王であるヴィルヘルム1世の夏の離宮として建てられました。僕が、ヴィルヘルマ動物園に入ってまず驚いた事は、その広大な敷地の広さと動物の種類と数です。気になって調べてみると30ヘクタールの土地に約1150種9000の動物がいるそうです。また、それぞれの動物がとても見やすくなっていて、中には成長していく過程が分かるよう、雛から順番に展示してありました。僕たちが見に行ったときは、ちょうど卵から雛が孵ったところで、最初はおぼつかなかった足も、しばらくするとしっかりきて、これからあの大きな鶏になると思うと、すごい生命力だと思いました。ヴィルヘルマ動物園では、親がいなかったり、親に虐待されたりしたサルたちが世界中から保護され動物園で過ごしていました。また、動物園にはとても大きいゾウが2体もいたので迫力を感じました。



## 全員が1つに

### ～懇親会～

興文中学校 1年 奥田 結衣

懇親会では、今までホームステイでお世話になったホストファミリー、フレンドに感謝の気持ちを伝えるために、私たちができることで日本文化に少しでもふれてもらいたくて、アトラクションを行いました。

本番までの準備期間の短い中で、一生懸命に練習したアトラクションはうまくいくかなと不安もありましたが、皆も同じ気持ちでいたと思いました。

本番当日はホストフレンド、ファミリーをはじめ、学校の関係者のかたなど、とてもたくさんの方々が見に来ていただきました。たくさんの方々が見てくださるというのは、もともと聞いていたので、事前研修ではアトラクションが成功するようにどんなものにするか分担はどうするのか決めていきました。そして、それぞれの得意な日本の文化に関係のあるアトラクションにしようと思いました。しかし、練習時間は少なく、ダンスではなかなか振り付けが覚えられなかったり、動きがそろわなかったりということがありました。合唱では、声がでないという課題もありました。でも、みんなで支えあって一つ一つできるようになってきました。

そして本番では、三宅さんの和太鼓演奏から始まり、私と桑原さんで行った剣道実演、私と桃菜さんで行った書道、松井さんのけん玉や女子のダンス（Perfumeのチョコレート・ディスコ）などであっという間にアトラクションの時間はすぎました。途中には間違えたり、つまずいたりした事もあったもののドイツの方々の温かい応援で最後まで演じることができました。終演後みなさんから「上手だったよ、すごいね」と声をかけていただき、アトラクションをやって良かったと思いました。また懇親会を通してフレンドともさらに仲良くなることができました。その後みんなでバレーボールやサッカーをして楽しみました。私は、球技はあまり得意ではありませんが仲良く楽しむことができました。

ドイツの皆さんに私たちの感謝の気持ちが伝わったかどうかははっきり分かりませんが、みんなで一緒に楽しい時間が過ごせました。





## いざ フランクフルトへ

### ～フランクフルト観光～

星和中学校2年 高山 紗希

空港でフレンド達と涙のお別れをし、後ろ髪を引かれる思いの中、いざフランクフルトへ！！

昼食後、フランクフルトの大聖堂へ行きました。

正式名称は聖バルトメロスカイザードームといいます。文字通りとても大きな聖堂で、大きな時計がついた時計塔でもあります。外装や内装、ステンドグラスなどどこも美しく引き込まれました。

中にはイエスが受けたと言われる十戒が壁にあったり、死んでしまった時のイエスの像があたりして心が痛みました。私は初めて教会の中をじっくりと見たので、教会の造りや宗教の特徴にとっても驚きました。

色々を見て周る中、聖パウロス教会という、ドイツで初めて国民議会が開かれた場所へとやってきました。

実際に国会が行われた部屋にはドイツの国旗を始め、ドイツのすべての州と特別都市の旗がありました。当時のドイツの議会には民衆は参加することができず、国王と政治にたずさわるほんのわずかな人々で議論が行われていたそうです。なのでこの国会にはとても多くの人々が押しよせ、参加をしていたそうです。

しかしこの国会は1年で終わりを迎えてしまいました。

続いて私達は詩人、ゲーテが23歳になるまで過ごしていた家“ゲーテハウス”を訪れました。クリーム色の壁、1階には花がきれいに飾られている美しい家でした。

当時の家は主に石の床で、冬は底冷えし、凍えるほどの寒さでしたが、ゲーテの家は各部屋に暖房設備がしっかりとあり、床も木の床だったのでとても快適な家になっていたそうです。



ゲーテには亡くなる時に残した言葉があります。それは、“もっと光を”です。当時、芸術家の人々は余り恵まれておらず、ゲーテのような暮らしはそうそうできるものではありませんでした。それを知ったゲーテは“若い芸術家の人々にもっと栄光を力を”という意味をもって言葉を残したのかもしれない。

ゲーテは才能を認められたため、ゲーテ自身の紋章である星と琴（ハープ）の紋章をもらいました。

そうして私たちはホテルに戻り、思い思いに過ごしました。このドイツでの日々を思い返すと、嬉しかったことや知らなかったこと、言葉がなかなか伝わらない事の歯がゆさ、また思いが伝わった時の喜び・・・、ドイツに来てかけがえのない友達を作ることができて本当によかったと思います。飛行機に乗ってみんなの思い出話を聞いてみると、またフレンドのみんなに会いに行きたくなりました。

フレンドをはじめ、私たちを温かく迎え入れてくれたドイツのみなさん、ダンケシェーン！！